

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を旨とし、自ら学び、自ら考え行動する心豊かでたくましくバランスのとれた、国際社会に貢献する人間力あふれた人材を育成する。

- 1 「守る伝統から創る伝統へ」のキャッチフレーズのもと、古き良き伝統を継承しながら、「グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)」として、地域にねざしつつ、積極的に国際交流活動を行い、国際感覚の育成をめざす。
- 2 生徒の進路実現に向け、大学との連携等を通じて学習活動の充実を図り、コミュニケーション能力、問題解決能力、科学的思考力を育成する。
- 3 生徒の自主性を重んじ、生徒会活動や部活動の活性化を図り、グローバルリーダーとしてふさわしい人格の形成をめざす。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援

(1) 「確かな学力」3要素の育成

ア より高い授業力を求め、研究授業や授業アンケートなどを活用して授業研究を行う。

※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業の工夫」に対する肯定率 85%以上を維持する。(H29:82% H30:85% R01:90%)

イ 「主体的・対話的で深い学び」のある授業作りの研究・実践を行う。

ウ 校内の ICT 環境の整備を進め、ICT 機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。

※ 教科特性に応じた主体的で対話的な深い学びのある授業を、授業実践を通じて教科ごとに構築する。

※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業満足度」（喫高の授業は必要な力がつく）の肯定率を 90%以上とし維持させる。(H29:90% H30:94% R01:94%)

(2) 次期学習指導要領に対応した指導と評価のあり方を研究・実践し、円滑な移行に備える。

ア 次期学習指導要領のねらいを実現するため、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」育成の指導と評価に反映させる。

イ 課題研究・探究活動を通じて、「思考力・判断力・表現力」及び「主体的に協働しながら学ぶ力」を育成する。

※ 学校教育自己診断（生徒）による課題研究等への肯定率を 80%以上とする。(H29:68% H30:72% R01:74%)

(3) 生徒が自己の将来像を描き、希望の進路を実現するための指導と支援の充実を図る。

ア 飯盛セミナーや大学研究室訪問など、大学や企業で活躍する社会人から学ぶ機会を設けてキャリア発達を促す。

イ 授業の工夫や自習室の開室などにより、生徒に自学自習で学ぶ習慣を定着させる。

ウ 大学入試の傾向及び生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を行ない、自学自習の効果を向上させる。

※ 喫高学校教育自己診断（生徒）における、「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率 95%以上を維持する。(H29:96% H30:96% R01:96%)

※ 第一志望現役合格率 50%以上をめざす。(H29:57% H30: 58% R01:53%) 京都大学・大阪大学・神戸大学の合格者合計 60 名。(H29:69 名 H30:70 名 R01:80 名)

2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成

(1) グローバル社会においてリーダーとして活躍できる資質の育成。

ア 充実した生徒会活動、部活動等により、たくましい人間力を育成する。

※ 複数の部活動における近畿大会以上への出場を継続させる (H29: 7部 8種目 H30: 5部 13種目 R01:14部 19種目が近畿大会以上に出場)

イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導を徹底するとともに、社会貢献や人権に対する意識の向上を図る。

※ 生徒学校教育自己診断における「挨拶をよくしている」の肯定率 90%以上。(H29:90% H30:91% R01:89%)

(2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力等の育成。

ア 1年生の情報プレゼンテーション大会（霜月杯）・英語スピーチ大会（如月杯）、2年生の課題研究成果発表会（2回）などの取組みを通じて、コミュニケーション能力、主体的に協働しながら課題に取り組む力や表現力の向上を図る。

※ 校外での各種コンクール等への応募数及び入賞数毎年 10 名以上をめざす。(H29:13件 25名 H30: 9件 20名 R01: 8件 33名)

(3) 国際的な視野を広げ、異文化を理解するため、国際交流活動を充実させる。

ア 台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナムなど海外との交流を活用して、大学や関係機関の協力を得ながら、グローバルリーダーの育成に取り組む。

イ 国際共通言語としての英語が使えるよう、4技能統合型の授業や講習の充実を図り、実用英語力の向上を図る。

※ CEFR での B1 以上の到達率 250 名以上、B2 以上 120 名以上をめざす。(H29 B1:85名 B2: 8名 H30 B1:133名 B2: 4名 R01 B1:281名 B2:132名)

3 学校力・教員力の向上

(1) 機動力のある組織体制づくり

ア 進行中の教育改革にも迅速かつ柔軟に対応できるよう、ミドルアップダウン型の運営体制により組織内の共通認識と機動力を高める。

イ グローバルリーダー育成のための教育活動が更に推進されるよう、組織体制と業務内容について見直しと効果検証を継続的に行う。

ウ 働き方改革の実行により、仕事の負担による健康リスクの減少を図る。

(2) 研修等による教員力の向上

ア 校内研修を計画的に実施し、本校の教職員として必要な資質・能力の向上を図る。

イ 初任者研修や 10 年経験者研修等を活用し、OJT を通じて教員が相互に影響しあいながら教員力を向上する体制をつくる。

(3) 広報活動の充実による教育力の向上

ア 積極的な広報活動により、本校の特色とアドミッションポリシー（求める生徒像）を発信し、本校で学ぶ意欲の高い志願者を集める。

※ 学校説明会への参加者総数（年間）2,000 名以上を維持する。(H29:2,615 名 H30:2,505 名 R01:2,550 名)

(4) 安全で安心な学校生活を送れるよう環境を整備する。

ア 個人情報の適正な管理を行うとともに、万が一事故が発生した際に迅速かつ的確に対応できる体制を整備する。

イ 支援や指導を要する生徒に対して適切な対応ができるよう保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制をより一層充実する。

ウ 地震、大雨等の災害や事故等発生時の連絡体制の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。

エ 障がい等何らかの事情のある生徒が安全で安心な高校生活を送れるよう、支援検討会議を通じて合理的配慮と必要な支援を行う。

(5) 地元信頼される学校づくりを推進する。

ア 四條畷市等と連携を進め、地域と協働した取組みや小中学校との交流などを積極的に行なう。

イ 部活動や学校行事、課題研究の成果発表など本校の教育活動を通じて、地域貢献に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]					学校運営協議会からの意見					
質問内容		肯定率[%]								
		生徒	保護者	教員						
(1)	学校の満足度。(保護者:生徒が生き生きしている。)	91.6	97.9	-						
	畷高は楽しい。	92.4	87.5	-						
(2)	教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い。	90.9	-	-						
	興味を感じる授業が多い。	81.8	-	-						
	ペアワークやグループワークなどを授業に取り入れている。	-	-	78.0						
	授業におけるICT機器の活用。	-	-	83.0						
	授業アンケートの結果を教科指導に反映。	-	-	78.0						
(3)	担任以外にも悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	77.4	-	78.0						
	学校生活についての先生の指導は納得できる。(教員:理解を得ている)	89.7	95.6	85.0						
	将来の進路や生き方について考える機会がある。	95.4	91.4	73.0						
	生命の大切さや社会のルールについて考える機会がある。	86.7	90.7	-						
	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(教員:体制が整っている)	94.2	92.9	80.0						
(4)	畷高祭は、楽しく行えるように工夫されている。	93.7	94.2	-						
	部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	96.2	96.5	92.0						
(5)	本校の課題研究の取組みに満足。	75.0	90.7	78.0						
	本校の国際交流(台湾修学旅行・オーストラリア研修等)の取組みに満足。	86.6	83.3	67.0						
(6)	成績などの内容についてプライバシーが守られている。	92.8	94.1	78.0						
	人権を尊重した指導への取組み。(教員:十分に話し合われている)	-	93.6	45.0						

(1) 生徒の学校生活の満足度は高く、保護者の評価も高い。

(2) 生徒の授業満足度は増加した。教員のICTを活用した授業実施率は大幅に増加したが、コロナ禍でAL実施率はやや減少した。一方で、授業アンケートの結果を教科指導の改善に反映する率は大幅に増加した。今後は、学校全体で「めざす授業」に共有し、授業見学や研究授業を活性化していく必要がある。

(3) 生徒指導や進路指導、教育相談に関しては、生徒、保護者ともに評価が高い。教職員間の信頼関係に基づく教育活動は肯定率が20%以上上昇した。教職員の人権教育に関する肯定率はやや上昇したが、45%と低く、人権教育を充実していく必要がある。

(4) コロナ禍で制約が多かったにもかかわらず、行事や部活動に関する肯定率は生徒、保護者、教員いずれも90%以上と高く、今後も維持していく必要がある。

(5) 課題研究への取組みは、コロナ禍でスタートが遅れるなど、制約が多かったにもかかわらず、昨年度並みを維持した。課題研究に関する教職員の全校体制は一層進展しており、今後も継続していきたい。国際交流は海外研修の一部をオンラインで行ったが、コロナ禍で実施できなかった行事が多い。

(6) プライバシー保護や人権尊重への取組みについての生徒や保護者の評価は高い。しかし、人権課題や指導方法について、教職員で十分な話し合いが行われているとの肯定率は昨年比でやや上昇したが、依然として低く、改善していく必要がある。

【第1回】令和2年6月(書面開催)

- ・臨時休業中、いち早く「畷高スタイルの遠隔授業」を実施したことに学校としての組織力を感じた。第2波を踏まえた対応は?→ G Suiteの導入を進めている。
- ・令和2年度学校経営計画について、昨年度も着実に成果が出ているので、今年度も継続してほしい。
- ・昨年度の進路状況について、年々、国公立大学の合格者数が増加し、成果を上げている。多浪生はいるか?→ ほぼいない。
- ・令和2年度の進路の評価指標は?→ 評価指標としては明示していない。第1志望合格に向けてのモチベーションを高めることを大切にしている。
- ・SSH、GL部の活動ともに素晴らしい。課題研究は大学生顔負けの活動なので、コロナ禍でもオンラインなどで工夫して進めてほしい。

【第2回】令和2年11月18日(水)

- ・委員による授業見学。
- ・コロナ禍での教育活動や学校経営計画の進捗状況などを校長よりPPで説明。
- ・授業アンケートの書式は?→ 教育庁の書式を基に9項目で実施している。
- ・修学旅行実施に関する保護者の反応は?→ 生徒が楽しめていたので、良かった。
- ・畷高祭に関する保護者の反応は?→ 制約はあったが、質の高い畷高祭であった。
- ・3年生の「学びの航海図」作成は興味深い。
- ・「日本一の教育を受けられる学校」をめざすとは?→ 具体的な指標はないが、生徒の学力を伸ばしていきたい。
- ・SSH中間ヒアリングは好意的に評価された。第3期につなげてほしい。
- ・将来構想検討委員会を新設し、授業力、進路実現、クラス編成について検討している。
- ・楽しい学校であって、かつ目標実現ができる高校であってほしい。
- ・ずっと進化してきているのに、これから何を進化させ、何をめざすのか?→ 教員間の横の連携をとるなど「見える化」を図り、ワンチームで「日本一の教育を受けられる高等学校」をめざす。

【第3回】令和3年2月17日(水)(書面開催)

- ・コロナ禍での主な教育活動について
- オンライン授業や各種行事(畷高祭や修学旅行、音楽芸術祭等)の実施等、最大限の対応をした。生徒の自主性が発揮されてよかった。
- 学力保障がどれだけできたかが少し心配である。リアルタイム双方向による遠隔授業が今後の課題である。
- 「日本一の教育を受けられる学校」を掲げるなど、進化を求める姿勢は重要である。
- ・令和2年度学校経営計画及び評価(案)について
- 計画や評価指標は概ね達成されており、教職員の努力が表れている。
- 国公立大学合格者等の進路実現、ICT機器を活用した授業実施率、部活動加入率の上昇など、「守る伝統から創る伝統へ」が発揮されている。
- CEFRのB1、B2レベル、支援や配慮、人権権意識向上の目標未達成は残念だが、コロナ禍の影響もあると思うので、頑張って取組を継続してほしい。英語の4技能習得の向上を期待する。
- 「働き方改革」に向け、オーバーワークにならないように頑張してほしい。
- ・令和3年度学校経営計画及び評価(案)について
- 具体的な数値目標も含めた評価指標の提示、学習指導要領改訂に向けた内容など、適切な計画である。
- 令和2年度との違いが強調されていて、わかりやすい。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進はとても良い。
- 「GL部を中心とした全校体制」など、将来構想に向け、さらなる飛躍を期待する。
- ・GL部及びSSHの活動状況について
- コロナ禍で、様々な工夫をして活動されているのはGL部がしっかりしていることの証である。
- 探究活動はSSH以外の他校の新教育課程の先駆的役割を果たしており、情報発信に努めてほしい。
- 学校として、非常に組織的に教育活動が展開されている。次々と人材が育ってきて、より良いものへと活動を充実させている。
- 「学びの航海図」作成は良い取り組みである。
- 課題研究などは素晴らしい活動であり、同窓会などでも発表してほしい。
- コロナ禍で留学や現地での国際交流はできなかったが、オンライン交流や森林火災への募金など、目標をよく達成した。
- ・学校運営協議会より、令和2年度学校経営計画及び学校評価(案)、令和3年度学校経営計画及び学校評価(案)の承認を得た。

府立四條畷高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力」の育成と進路実現への支援	<p>(1)「確かな学力」3要素の育成 ア より高い授業力を求めた授業研究</p> <p>イ「主体的・対話的で深い学び」のある授業作り</p> <p>ウ ICT 機器を効果的に活用した授業づくり</p> <p>(2) 次期学習指導要領に対応した指導と評価 ア 次期学習指導要領に関する研究</p> <p>イ 課題研究等による確かな学力の育成</p> <p>(3) 進路実現の指導と支援 ア 飯盛セミナーなどを通じたキャリア発達の促し</p> <p>イ 自学自習の定着</p> <p>ウ 講習・補習等による自学自習の効果の向上</p>	<p>(1) ア・研究授業・授業公開を通じて、授業改善を進め生徒の意欲関心も高める。</p> <p>イ・「主体的・対話的で深い学び」のある授業作りの研究・実践を行う。</p> <p>ウ・ICT 機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。</p> <p>(2) ア・次期学習指導要領に対応した対応した授業作りの研究・実践を行う。</p> <p>イ・3年間を5期に分け、それぞれの目標を定め、全生徒を対象にして計画的に課題研究を行う。</p> <p>(3) ア・飯盛セミナー、大学研究室訪問を実施する。 イ・適切な課題の設定や自習室の開室などで自学自習の充実を図る。 ウ・大学入試の変化や生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を行う。</p>	<p>(1) ア・研究授業等の実施10回以上 (R01:15回) ・学校教育自己診断(生徒)での「興味を感じる授業」の肯定率75%以上維持する。(R01:82%) イ・アクティブラーニング(AL)の実施率80%以上(R01:83%) ウ・ICT機器の活用率70%以上 (R01:47%)</p> <p>(2) ア・アクティブラーニング(AL)の実施率80%以上(R01:83%) (再掲) イ・学校教育自己診断(生徒)による課題研究の肯定率80%以上 (R01:74%)</p> <p>(3) ア・京阪神キャンパスツアー(研究室訪問)の満足度90%以上 (R01:96%) イ・2年生の自学自習時間平均30分以上の増加 ウ・学校教育自己診断(生徒)での「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率95%以上 (R01:96%)</p>	<p>(1) ア・研究授業等の実施は12回(◎) ・学校教育自己診断(生徒)での「興味を感じる授業」の肯定率82%を維持(◎)</p> <p>イ・コロナ禍での制約の中、アクティブラーニング(AL)の実施率は78%に減少(○)</p> <p>ウ・ICT機器の活用率83%に増加(◎)</p> <p>(2) ア・コロナ禍での制約の中、アクティブラーニング(AL)の実施率は78%に減少(再掲)</p> <p>イ・コロナ禍での制約の中、学校教育自己診断(生徒)による課題研究等の肯定率は75%に微増(○)</p> <p>(3) ア・京阪神キャンパスツアー(研究室訪問)の満足度→実施できず、GLHS 大阪大学ツアーのみ。 イ・2年生の自学自習時間は平均17分の増加(△)</p> <p>ウ・学校教育自己診断(生徒)での「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率は98%に増加(◎)</p>
2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成	<p>(1) グローバルリーダーとしての資質の育成 ア 生徒会活動、部活動等によるたくましい人間力の育成</p> <p>イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導の徹底及び社会貢献や人権に対する意識の向上</p> <p>(2) コミュニケーション能力等の育成 ア 校内発表会への取組みを通じて、能力の育成を図る</p> <p>(3) 国際交流活動の充実 ア 海外との交流を活用したグローバルリーダーの育成</p> <p>イ 4技能統合型の授業や講習等による実用英語力の向上</p>	<p>(1) ア・文化祭等行事や部活動のさらなる充実。 イ・全教員で登校時の生徒指導を行う。 ・地域清掃などの奉仕活動を継続的に行う。 ・人権意識向上に取り組み、とりわけSNSでの人権侵害については、教員研修の充実を図り一層の指導を行う。</p> <p>(2) ア・情報プレゼンテーション大会(霜月杯)・英語スピーチ大会(如月杯)、課題研究発表会(2回)などを系統的に実施し、発表力の向上を図る。</p> <p>(3) ア・台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナムなど海外との交流を活用して課題研究の質を向上させる。 イ・国際交流キャンプ、4技能統合型の英語授業や講習などを通じて、使える英語力を向上させる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)による「暇高祭の工夫」に関する肯定率90%以上の維持(R01:92%) ・部活動の加入率90%以上(R01:96%) ・近畿大会10種目以上出場 (R01:14部19種目) イ・学校教育自己診断(生徒)による「挨拶をよくする」の肯定率90%以上 (R01:89%) ・学校教育自己診断(教員)による人権を尊重した指導への自己肯定率60%以上(R01:39%)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断(生徒)による「発表活動のチャンスが多い」の肯定率85%以上 (R01:90%) ・校外のコンテスト等での入賞10件以上(R01:9件)</p> <p>(3) ア・海外との交流を活用した課題研究等の実施5本以上(R01:6本) イ・CEFRのB1レベル250名、B2レベル120名(R01:B1 281名、B2 132名)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)による「暇高祭の工夫」に関する肯定率94%に増加(◎) ・部活動の加入率は98%に増加(◎) ・全国大会出場は、1部1種目 ・近畿大会出場は、6部8種目(○)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)による「挨拶をよくする」の肯定率は90%に微増(○) ・学校教育自己診断(教員)による人権を尊重した指導への自己肯定率は45%に増加(△)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断(生徒)による「発表活動のチャンスが多い」の肯定率は90%を維持(◎)</p> <p>・コロナ禍で校外コンテスト自体が減少し、入賞は3件であった。東和薬品ビジネスコンテスト、関西SDGSユースアイディアコンテスト、テクノ愛。(一)</p> <p>(3) ア・海外との交流を活用した課題研究等の実施は5本を維持(○)</p> <p>イ・CEFR B1レベル:248名、B2レベル:91名に減少(△)</p>

府立四條畷高等学校

<p>3 学 校 力 ・ 教 員 力 の 向 上</p>	<p>(1) 機動力のある組織体制 ア ミドルアップダウン型の運営体制づくり イ グローバルリーダー育成のための組織と業務の見直し及び検証 ウ 働き方改革の実行による仕事の負担リスク減少</p> <p>(2) 研修等による教員力の向上 ア 校内研修を計画的実施 イ 法定研修を活用したOJTによる教員力の向上</p> <p>(3) 広報活動の充実による教育力の向上 ア 広報活動による本校の特色とアドミッションポリシーの発信</p> <p>(4) 安全で安心な学校生活への環境整備 ア 個人情報の適正な管理と事故対応への体制整備 イ 障がい等による支援や指導を要する生徒への適切な対応 ウ 災害や事故等発生時の体制整備</p> <p>(5) 地元信頼される学校づくり ア 四條畷市等との連携 イ 部活動や学校行事、課題研究の成果発表などを通じた地域貢献</p>	<p>(1) ア・経営企画会議で課題認識の共有を図り、WGを設置して課題解決に取り組む。 イ・GL部を学校経営に関係する分掌と位置付け、経営企画会議と連携しながら、課題研究を核としたGL教育を充実させる。 ウ・全校一斉退庁日の有効実施。</p> <p>(2) ア・校内研修の中期計画による実施 イ・メンター制度によりOJTで初任者・2年目・10年目教員の相互育成を図る。</p> <p>(3) ア・校内・外での学校説明会などで積極的に本校の特色とアドミッションポリシーを発信する。</p> <p>(4) ア・個人情報の適正な管理と事故対応についてWGで再検討し、周知徹底を図る。 イ・支援検討会議により個別の教育支援計画を策定し、合理的配慮に基づく個に応じた支援と指導及び成績評価を行う。 ウ・防犯・防災計画、大規模災害時初期対応マニュアル等の内容を周知徹底する。</p> <p>(5) ア・小中学校への出前授業やオープンラボ等、四條畷市等と交流した取組を行う。 イ・地域住民に向けた部活動の取組みや課題研究の成果発表などを行う。</p>	<p>(1) ア・経営企画会議の定例開催(毎週) ・学校教育自己診断(教員)での「教育活動全般の評価と検証」の肯定率を70%以上(R01:57%) イ・学校教育自己診断(教員)での「課題研究活動の取組み」の肯定率を80%以上(R01:74%) ウ・全校一斉退庁日における残留者の減少(月ごと前年度比較)</p> <p>(2) ア・研修の効果測定を行い、肯定率を90%以上とする。(R01:95%) イ・メンター制度の満足度を90%以上とする。(R01:100%)</p> <p>(3) ア・学校説明会への参加者数2,000名以上の維持(R01:2,550名)</p> <p>(4) ア・学校教育自己診断(教員)における教職員の「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定率70%以上(R01:66%) イ・学校教育自己診断(教員)における「支援や配慮」に関する肯定率80%以上(R01:77%) ウ・学校教育自己診断(教員)における「災害や事故等発生時の体制」に関する肯定率80%以上(R01:82%)</p> <p>(5) ア・小中学校を対象とした取組み及び四條畷市と連携した取組みを計5種類以上(R01:8種類) イ・地域住民等に向けた取組みを4種類以上行う(R01:6種類)</p>	<p>(1) ア・経営企画会議の定例開催(◎) ・学校教育自己診断(教員)での「教育活動全般の評価と検証」の肯定率は57%と変わらず(△) イ・学校教育自己診断(教員)での「課題研究活動の取組み」の肯定率は78%に増加(○) ウ・12月末現在、全校一斉退庁日における残留者は微増(R01:421人 R02:436人)(△)</p> <p>(2) ア・研修の肯定率は96%に微増(◎) イ・メンター制度の満足度は100%(◎)</p> <p>(3) ア・コロナ禍で学校説明会は2回に減り、人数制限を設けたため、参加者数は1052名に減少(○)</p> <p>(4) ア・学校教育自己診断(教員)における教職員の「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定率は78%に増加(◎) イ・学校教育自己診断(教員)における「支援や配慮」に関する肯定率は67%に減少(△) ウ・学校教育自己診断(教員)における「災害や事故等発生時の体制」に関する肯定率(昨年度も学校教育自己診断に質問項目なし)</p> <p>(5) ア・コロナ禍のため、小中学校を対象とした取組み及び四條畷市と連携した取組みは3種類に減少(○) イ・コロナ禍のため、地域住民等に向けた取組みは4種類に減少(○)</p>
--	--	---	---	--